

# パレスチナ／イスラエルに 和平派・リベラル派は 向き合っているのか

はや あ たかのり  
**早尾 貴紀さん講演会**



東エルサレムに建てられている巨大な分離壁

ガザ・ジェノサイドに対して、停戦・和平の安保理決議を歓迎する声がある。もちろん永続的に停戦はすべきだが、トランプ和平案は、オスロ体制の焼き直しであり、ハマスを排除して傀儡独裁化したPLOを再活用するということだ。二国家解決の和平を謳いながら、パレスチナは無力化され消滅させられるというのに、日本でもジャーナリストや研究者に「オスロ和平への回帰」を善意で支持する者は多い。

米国については、強硬右派の共和党よりも稳健和平派の民主党がマシという言説が多いが、クリントンからオバマ、バイデンまで、断固としてイスラエルを支援してきた。リベラルを自任するメディアもまた、イスラエルの植民地主義や人種主義を指摘せず、その暴力性を矮小化して、「双方の対立・紛争」という描き方をしがちだ。

そうした欺瞞的な言説に対する抵抗、オルタナティヴはどこにあるのか。日本のメディアの状況や、米国NY市長となったゾーラン・マムダニなどに着目して考えたい。



本の写真は、右上から時計周りに早尾貴紀さんの著書『イスラエルについて知っておきたい30のこと』、『パレスチナ、イスラエル そして 日本のわたしたち』。訳書『イスラエル=アメリカの新植民地主義』、『ガザ欄外の声を求めて』

第82回 (2026年)  
埼玉・市民ジャーナリズム講座

2/14

(土)

午前10時～正午

浦和コミュニティセンター

第13集会室

浦和パレコ上10階、定員90人

(予約制ではありません。出来れば事前にご連絡ください。先着順)

早尾貴紀



東京経済大学教員、社会思想史。2002-04年ハブライ大学客員研究员として東エルサレム在住、ヨルダン川西岸地区と

ガザ地区とイスラエルをフィールドワーク。著書：『パレスチナ、イスラエル、そして日本のわたしたち』（皓星社）、『イスラエルについて知っておきたい30のこと』（平凡社）など。訳書：ジョー・サッコ『ガザ 欄外の声を求めて』（Type Slowly）、ハミッド・ダバシ『イスラエル=アメリカの新植民地主義』（地平社）など。1973年生まれ。

申込み & 問合せ

090-6190-4634(quiero)

FAX 048-798-7634

saitamashiminj@gmail.com



← 申込みフォーム

資料代: 800円

※学生、障害者は半額

※オンライン視聴も出来ます

(申し込みは前日まで)

埼玉・市民ジャーナリズム講座

埼玉県には古くから独自の歴史と文化があります。埼玉がよりいっそう活性化、発展するためには地域に根ざした多様で「市民に開かれたメディア」の存在と活躍が不可欠です。市民の皆さんと、ジャーナリズム、メディアアリテラシー、地域文化の育成などの課題を、この「埼玉・市民ジャーナリズム講座」の場を通して共に考え、情報発信していきたいと考えています。地元・地方紙「埼玉新聞」の紙面協力のもと2014年から取り組んでいます。 主催:埼玉・市民ジャーナリズム講座実行委員会(代表:門奈直樹・立教大学名誉教授/埼玉新聞サポートーズクラブ/日本機関紙協会埼玉県本部/NPO法人埼玉情報センター/さきたま新聞/NPOくまがや有志) 協力:SAITAMA共同かわらばん/JCJ埼玉支部